

令和3年度 第1回 城南図書館・児童館 連絡協議会 (城南児童館運営審議会) 議事要録

1 開催日時及び場所

令和3年7月14日(水) 14:00~15:15

場所: 熊本市立城南図書館 多目的室

2 出席委員 14名

尚綱大学短期大学部 幼児教育学科 准教授

城南子育て支援センター(小木こども園)

熊本市立隈庄小学校 校長

熊本市南区文化協会 会長

隈庄校区青少年健全育成協議会 会長

舞原自治会 会長

火の君スポーツクラブ 会長

隈庄校区主任児童委員・民生委員

親育ち支援の会 ポトフ

子育て支援クラブ「ピカピカ」 会長

城南まちづくりセンター 城南公民館 館長

熊本市健康福祉局 子ども未来部 子ども支援課

熊本市教育委員会事務局 教育総務部 熊本市立図書館

城南図書館管理運営共同企業体 代表

3 議事内容

1) 令和3年度事業計画及び近況報告について

2) 利用人数等の報告

・資料に基づき、事業計画及び近況、利用人数等について報告

・アンケート集計結果について、資料に基づき、別途報告

4 意見交換内容

「城南図書館・城南児童館へ意見等」

○委員 A

コロナ禍の中、大変なご心労があったかと拝察します。公的な施設機関というところで、求められる水準の高さは非常に高いものであり、大丈夫だろうという期待に答えるために、非常に細やかなところまで気配りされてきたのかなと感じている。感染者を出さないだけで

はなく、その中で公的な機関として図書館・児童館それぞれ機能を果たしながら、子ども達のため、地域のために運営していくのは非常に難しいことだと思っている。今回の資料、また毎月送っていただく資料に目を通させていただいているが、本当に色々な工夫をされていて、できる事、できない事をその都度判断しながら適切な運営をされてきたのではないのかなと思っている。これからもどうなるか分からない、第五波ということもある。また私も懸念しているが、ワクチンの接種状況による施設利用に対しての意識の差というところも、良い悪いという問題ではなく、そういった色々な価値観を持った利用者の方もいらっしゃると思う。そういった方々にどの様なサービスを提供していくのか、これは日本全体で考えなくてはいけないことだと思っている。ただ、このコロナ禍の1年半の間で、私たちはどの様に過ごさないといけないかという生活のスタイルはほぼ固まってきましたし、教育の現場も含め、リモートによる色々な技術と運用の革新が急ピッチで進められてきている。いずれ来る未来の形になったのかもしれないが、コロナによって急激に身近に迫ってしまい、各々の現場で必死にやってきている。私も造形美術を教えているが、リモートでは中々難しい大事なことがあり、この状況でどの様にリモートでやっていくか考察し、成果もあったが課題も出てきた。これからは検証していく方向に動いていくところであり、技術や方法が革新されたからこそ考えなくてはいけないこと、そして今後コロナが落ち着いた後にどう活かしていくのかという段階に入ってきているかと思う。貴館でも休館中何ができるのかなどを検討されて、リモートでも色々発信されている。委員として3年ほど関わらせていただいているが、非常に高い水準で運営されてきている。この高い水準を保ちつつ、今度は次のフェーズにコロナ禍の中で得た様々な事を、コロナが落ち着いた後どのように活かしていくのかを検証しつつ、更なる次の展開を期待している。単純な思い付きだが、リモートにすることで普段足を運べない方や病院等で永らく足を運ぶことができない子ども達というのは、何かしらの社会的接点を求めているのではないかと思う。その時にリモートの準備が整っていれば、気軽に関りを持てるのではないか。より良くしていくためにどうしたらよいか、城南図書館・児童館の皆さんなら可能ではないかと勝手ながら期待している。今も精一杯いただいているので、体を労わりながら今後とも是非よろしく申し上げます。

企業体代表：アドバイスをいただき、私もリモート児童館というものの可能性を探っていきたいと感じました。技術的に十分できることは分かっておりますので、公設児童館としてできるのか、担当課と協議して、可能性についてまたご報告させていただきます。

○委員B

スタッフの方からコロナ禍の中で非常に苦勞をされたと聞き、どうしたら感染防止ができるのかと考えた時、やはり早くワクチンを接種することに勝るものはないと思う。ワクチンの接種については、公的な場所での職員は優先されてもいいのかなという気がしている。それが来館者に対しての、ある意味おもてなしと感染防止に繋がっていくと思う。

報告にあった動画配信について、情報を自治会へ回覧してもらうとより地域住民へ徹底で

きる 1 つの方法になると思う。それから読書推進について、どうやって本を手にする人を増やしているか、今日は楽しみにしてきた。学校教育を基本にしながら次の時代を担う子どもたちに「知」の文化として、本を通して追体験をしながら自分のこれからの将来を見極めていく、その大きな柱になるものが本だと思う。そういう意味で「知の文化」というのは非常に重要な部分があると思う。特にこういった厳しい社会状況の中で、自分達がこれから将来どう向かってどのように生きていくのかといった時に、勿論学校教育は大切だが、プラス α としての社会的補完教育といった意味でこの図書館・児童館が果たす役割というのは非常に大きな役割を持っているので、積極的に関わっていきたいと思っている。今後もお互い連携して頑張っていきたい。

企業体代表：もしまた休館ということになれば、配信系を自治会の皆様をお願いして回覧等で広めることも積極的にお言葉に甘えたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員 C

市立図書館も本協議会に参加されているのでお願いがある。学校支援の取り組みとして、各小学校の図書館と結んだ「物語定期便」を実施されているが、各小学校にある学童クラブは本をたくさん買いたいけど予算がないということで、図書館の本を貸せるようになればいいと思っている。もし、制度があるのであれば、隈庄・杉上・豊田の児童育成クラブでの実施を検討いただきたい。

先程の自治協議会での回覧とは別に学校からプリントを配っていただくと子供たちから親の手に渡りますし、PTA メールという手段もある。それから小中学生に持たせてあるタブレットで夏休みの自由研究のヒントになるようなものがあると児童生徒が情報を確認することが出来ますし、図書館関係のイベントや様々な情報を、学校を通じて配信できたらいいなと思っている。

企業体代表：学童さんとの本の貸出は団体貸出制度を活用していただければ、50 冊までの貸出は可能となりますので、まずは登録をお願いいたします。PTA メール等の情報についてはありがとうございます。またご相談させていただいて、ぜひ良い形で進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○委員 D

毎回参加させていただいているが、計画をもとに様々な行事を見事に実施されている。私も公民館で塾や習字など色んなことをやっているが、今のところコロナ感染者などは出していないという状況。図書館・児童館については対策をよくされていると思う。今後も私達も感染者が出ないように、しっかりとやっていきたい。

○委員 E

ここにある年次計画には市の指定事業、自主事業があるが、市の指定事業は前年度との相違

はあるか。

館長：指定事業に変わりはありません。

○委員 F

現在、児童館の事業の一部に参加させていただいている。いつも満杯で、参加のお母さん方は、子育てもコロナ禍でますます孤軍奮闘されている中、心配しながら悩みを抱えて緊張して来られているが、参加者同士の交流のほか、保健師や歯科衛生士、児童館や図書館司書による読み聞かせ、本の紹介、読み方など話を聞くことができ、安心して帰っておられる。来られる方々も城南町だけでなく御幸・田迎・画図あるいは宇城の方からもたくさんここを利用しておられる。先程話しにあったが、zoom やリモートを使ってたくさんの方が利用出来るようになったらいいなと思っている。私も城南に住んで孫もおり、どこで遊ばせようかと思った時は、すぐに児童館を利用させてもらっている。コロナ感染対策もかなりきちっとされて、おもちゃも1回1回消毒してからの貸出となっているので、非常に安心している。今日は色々な事業内容を聞かせていただいて勉強になった。

○委員 G

久しぶりに顔を見てホッとしている。コロナ禍で利用する親子と会えないことも寂しいが、こういった会議も全くなく、リモート会議も私には難しくあたふたしていた。その様な中で、児童厚生員と電話で連絡を取り合い、活動内容の相談や、移動図書館で訪問された時に顔を合わせ挨拶することが嬉しいと思える日を過ごしていた。支援センターは閉館になると全く親子が利用することが出来なくなり、清掃とおもちゃ制作の日々なのだが、児童館より工作キットの持ち帰りができることを聞き、そのことを伝え、お母さん達の不安を和らげる手助けをすることができた。ずっと家の中にいるのが大変でしたという声がたくさんあったので良かったと思う。児童館が開館したのでセンターも開いたと思って来たと言われるお母さんも多くあった。これから先コロナが無くなることはないと思うが、上手く付き合っていけるように、その中でも色々な家庭が出てくると思うが親子に寄り添っていけるように協力して活動していけたらと思う。これからもよろしくお願いします。

企業体代表：ありがとうございます。こちらこそよろしくお願いします。

○委員 H

今日も久しぶりにはじめの一步があったのでお母さん達に会えた。今6~7ヶ月の子どもを持つお母さん達は、皆コロナ禍で出産された方達ばかりで、一生懸命子育てされていて、お産も初めて、病院で立会いもできない、面会もできないという状態で、とても寂しい思いで出産をされて、育児もどこも行く所がないといったところで本当に可哀想だと思う所がいっぱいある。本来なら、子育てを本当に楽しんで毎日を過ごしてもらいたいと思っている。児童館は本当におもちゃの配布や動画配信など色んな工夫されていて、ありがたいと思っ

ている。私達も訪問活動ができなくて電話等で話しをすると、「出かける先がなくキツイ」と言われる声が多く、相談もリモート等で行っている。

動画配信はとてもいいと思う。チラシの目に付く所に QR コードがあるととてもいいと思う。また色んなことをしていただきたい。よろしくお願いします。

企業体代表：管理運営をしている我々だけでなく、お母さん方も非常に苦しい中で頑張っているというお話を聞いて、我々も少し考え方を考えていかなければいけないと思いました。配信活動も、たぶん城南地区だけでなく他の児童館も閉まっていて皆困っていると思うので、市の担当課様と協議しながら、そういった方々へ向けて我々が作ったもので良ければ見ていただける環境を作りたいと思います。ありがとうございました。

○委員 I

今年度クラブが発足してすぐに休館になってしまったので、中々イベントができていないが、去年同様定員を 15 名に限って活動している。昨年度から今年度にかけて半数以上の会員様が入替わられた。子供が 1 歳を迎えたら仕事復帰される方がたくさんいる。先程から話しが出ているが、そこまでの時期が 1 番キツイのかなあと感じた。私自身も 3 人目が家にいるが、休館中は本当にどこにも行く所がなく大変だったところ、児童館の先生から図書館内に持ち帰りの工作キットも置いてあるし、動画配信していると教えてもらったので、クラブのグループ LINE で流した。お世話になった人もたくさんいたと思う。今後も先生と協力し、また支援いただきながらできる活動を行っていきたいと思うのでよろしくお願いします。

企業体代表：皆様方からあたたかい言葉をいただくので、コロナに関係なく皆様方に提供できることがあればどんどん取り組んでいきたいと思えます。ありがとうございました。

○委員 J

今年は 4 月から始業式、入学式が実施できまして、コロナ禍の下、制限をかけながらも子ども達は元気に学習している状況にある。学校にも図書室があるが、主に低学年を中心に司書の先生がいっぱい本を並べ、本に親しむということで工夫されて行われている。子ども達も本を入れる専用のバッグを持ってきて借りて帰っている。ちょうど夏休みの図書貸出週間で本に親しむことができていると思う。報告にあったが今回リモートになったけれどもコロナ禍を抜けたらまた来館させていただきたいと思っている。

昨年は 1 回も授業参観ができず、今年やっと 2 部制だが今月実施を予定している。総会は少ない参加だったが行い、学級懇談会は子ども達が持つタブレットを通してリモートで担任と行うことになっている。子ども達はデモンストレーションで理解し、親子で観ることができるように進めている。

図書館・児童館が拠点のターミナルとなり、親同士も繋がれる、子供同士も繋がれる、そういう場に今後も中心となって働いていただければと思う。中々保護者同士の繋がりが難し

い状況なので、大変かと思うが今後ともよろしくお願いします。

企業体代表：引続きお世話になります、よろしくお願いいたします。

○委員 K

図書館・児童館とは月に1回定期的な連絡会議ということで、共通する部分もあり、自主事業のコラボ企画等も今月からできるのではないかと考えている。同じ敷地内ということで色々と協力をしながら連携を図っていききたいと思うので今後ともよろしくお願いします。

○企業体代表

様々なご意見、貴重なご意見をいただきまして、ここにいただいた意見をいかに形にするかが私、管理者の使命と考えております。必ず、半年後の報告の際は、あの時いただいたご意見はこういう風に出たとお伝えしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○子ども支援課

色々な意見を聞く中で、やはり動画の配信はできる限り私共一緒になってご相談しながら早い段階で話を進めていけたらと考えております。休館中の母親クラブの色んな意見を聞いて、問題があれば一緒になってコロナの中でも逆に負けずに「これをやって良かった」ということを何か1つでもやっていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○市立図書館

皆様の話しを聞かせていただいた中で、当方でも弱い部分というのは、広報・周知的なものが上手くいってなかったのではという風に認識しています。正直、公民館図書室の方は休館という形を取っており、図書サービス自体は予約本の受取り、返却などは実施していました。ただ、6/29の再開以降、いくつかの公民館図書室に話しを聞いたところ、「図書館は開いていたのですかと」という利用者の声もあったということでした。利用者の目線に立つならば、そういう広報的な面も含めて色々な形での周知は大事なのかなと認識した次第です。あとは先程の児童育成クラブには団体貸出の利用登録をしていただく形でより多くの本を読んでもいただける機会は提供できるのかなと思っております。今後ともこちらでご意見ありましたらお聞かせいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上